令和４年６月７日　議会改革特別委員会　議事録
13時00分　再開

○出席委員　（９人）
委 員 長　網谷　芳孝
副委員長　西村　一啓
委　　員　藤川　和弘、原田　孝徳、小中真樹雄、小田上尚典、北地　範久、日域　　究
議　　長　賀屋　幸治
○欠席委員　なし

○網谷委員長　それでは、定足数に達していますので、これより議会改革特別委員会を開会いたします。

日程第１議員定数問題に関する、全議員16名のアンケート結果の中で、無投票を回避するための打開策についての疑問点、検証及び深掘りに対する意見交換といたします。

前委員会からの引き続きということで、宿題としました無投票回避の打開策として、立候補に挑戦するためのハードルを下げる方策について意見交換させていただきます。その中でいろいろ意見が出ようかと思いますが、今回は議員定数問題以外の意見を出していただけたらと思います。

原田委員。

○原田委員　前回の議会改革の中で発言させてもらったのと同様の発言になるかと思うんですけど、まず、おおむね打開策はないということで、大ざっぱな結論は出たんじゃないかなと思います。その中で打開策になり得るようなものを皆さんで考えていきましょうというお話だったと思うんですが、それでよろしかったですかね。

前回、家族の問題とか周囲の問題、その人を取り巻く問題というのは、議会が何かできる問題ではないと思いますので、こういうものは議論の中に入れる必要はないのかなという前提として、私が考えたのは、現職の議員が議員活動でいろんな方とお話する機会があると思います。雑談であったり、公式な場であったり、そういうところで、議員ってこういう仕事をしてるんだよとか、発信していくというのが一つあるのではないかなというのが私の意見です。

以上です。

○網谷委員長　ありがとうございます。情報発信ということで、各議員、それぞれやっておられることと信じております。それも一つはあるかと思います。

ほかにございますかね。

小田上委員。

○小田上委員　実際に議会でできるところのハードルというところで、選挙に焦点を当てて考えたときに、大竹の選挙と近隣の市町の選挙で一番違うところがあるなっていうのが一つ。12時から３時の選挙カー回さない申合せがあります。ほかの選挙を経験してる人から

するとすごいねそれって言われて、ある意味議会でできる一つのことなんだろうなと思って。選挙カーを大竹市内は回さないというような、もっと極端なものにしたら、そこに係る人的なところの確保の不安とかがなくなって、できるかもなと思うんじゃないかなと思いました。選挙カー出すことは自由なので、どこまで制限できるかというのがあるんですけど、実際に申合せとして回らないということが時間帯によってできていることを考えると可能性があるのかなと思ったりしました。実際に選挙に出るってなって、選挙事務所の設置とかあると思うんですけど、そういうところも本当はしなくてもいいんだけど、しないと大竹じゃ駄目だなみたいな雰囲気がどこかしら持たれてる方も多いんじゃないかなと。そういうところが払拭できれば、議会の中で、申合せでやる方法ができたら、ハードルは下がって面白くなるのかなと思いました。

以上です。

○網谷委員長　ありがとうございました。

小中議員。

○小中委員　私はそれは全くナンセンスというか、申合せ自体、その理由を聞いて何を言うとるんやと私は思いましたけどね。強制したら公選法違反になるんちゃうかと思いましたよ。たった１週間ですよ。３交代やて何かわけの分からん。やりたかったら勝手に１人でやったらええわけでね。本当常識外れもええとこやと私は思います。

○網谷委員長　ありがとうございます。いろいろな意見があろうかと。

日域委員。

○日域委員　戦略ですからいろいろなことがあると思います。

議員定数以外でハードル下げるって、実際は難しいですよ。ある一流大学の名誉教授かな、彼が言ったのは、一旦落ちた場合に次の選挙まで大変なんだと、だからそこに一定の手当をつけろと。それは御本人のアイデアみたいでしたけど、落選したら全員というわけにはいかないかもしれないけども、次点の人ぐらいにね、一定の金銭保障じゃないけど、500万あげるよと。条例つくって決めれば可能かなとは思いますけども、具体的にね、ハードルを下げるってなかなかね。選挙事務所もなかったらないで不利ですからね、あったほうがいいんでしょうけども、つくったらお金が要るじゃないですか。そういうのがあって、やっぱりなかなか大変ですよ。そんなことやろうと思ったら、議会が否決するかもしれませんよ。だけどそのぐらいでもしない限りハードル下がらないですよね。それでも出るんだっていう人がいないとこういう制度は機能しませんから、出たい人がいっぱいいるまちであってほしいなとは思いますけど。

以上です。

○網谷委員長　ありがとうございます。

ほかにございますか。

藤川委員。

○藤川委員　今私自身がやってることなんですけど、これは私なりにで勘違いしてほしくないですが、今やっている活動をアピール、議員としての活動をいろいろアピールをしてます。でもすればするほど引かれるんですよね。土日は休みはない、いろんな活動をしない

といけない。議員になってほしいとまでは思いませんけど、もっと身近なものに感じていくために、私の年代の人にはアピールするんですけど、それをすればするほど引かれるんですね。議員が楽しいからやりなさいっていうのはちょっと無理なのかなと。議員が苦しいこともないんですよ。大竹市のためを思ってここにおらせていただいてるんですけど、なかなか伝わらない部分が。それでも議員の今の活動を知らせていくべき、それが一番の近道なのかなと思ってます。僕はたった３年ですけど、結果としては出てません。

○網谷委員長　ありがとうございます。自分なりに一生懸命やってはいるがまだ実感として湧いてないというような感じなんだね。

ほかにございますか。

小田上委員。

○小田上委員　意見じゃないんですけど、この発言をしようかどうか迷ったんですけど、意見を出してくれと言われて意見を出します。こういうのはどうだろうかという意見は、僕はこの委員の中では出してるつもりではいます。そのことに対して批判されるのは結構なんですけど、批判に終始されていることが多い気がします。それは駄目だと思う、自分はこう思うからということであればいいんですけど、そんなのは常識で考えたら分かるとか、出した意見に否定的なものが出ると、こういう意見の出し合いというのは意見が出にくくなるものだと僕はいろんな人から教わってきました。それもあるよね、ただ自分はこう思うよというのが意見の出し合いなんだろうと思ってますので、なるべくそういう運営になるように、委員長お願いします。

○網谷委員長　ありがとうございます。討論ではございませんのでね、各委員さんの考えを述べていただくということで、若干批判めいたことに走ることがあるかも分かりませんが、それは考えていただいて、発言していただらと思います。

原田委員。

○原田委員　今、小田上委員が言われたように、建設的な議論をしていく場であると思いますから、それぞれ意見あると思うんですけど、その辺り皆さんが、仮にそういう意見が出たとしても、じゃあそれに対して上手に委員長のほうで言葉を変えてもらって、皆さんに議論を投げかけてもらうというようなやり方もあるのかなと思います。できる限りそういう議論になるように、委員長だけじゃなくて我々ももちろん協力しなければいけない問題であると思うんで、小田上委員と同じ意見なんですが、そういう委員会運営になればと思っております。お願いいたします。

○網谷委員長　委員長の手腕を少し上手に出してくれという、そのような言い方にも取れるんですが、その辺のところは私も頑張っておりますので、御了承よろしくお願いします。

議会を少しでもよくする、今日のテーマは出馬に対していかにハードルを下げるかということは、確かに資金面もそれの中に入ろうかと思います。

日域委員。

○日域委員　今の一連の話ですけども、考え方はいろいろありますよね。ただきつい球を投げられ、きつい球を投げ返したらね、ハイレベルのキャッチボールができるわけです。私もそういうことは何度もありましたけど、私はそんなことをどうこう感じたことはありま

せん。殴られたら別ですよ、言葉である限りは別に私は感じませんけども、思いやりの言葉を話している間は何も議論進まないですよね。

こういうまちほかにありますかね。だから、さっきの話で大竹はって言われましたよね。例えば、岩国市だって大竹市とまちの成り立ちはそっくりなんですよね。企業があってね、３交代あるんでしょう、やっぱり。うちの女房がね、結婚したときに大竹来てね、セールスマン来るわけですよ。それで、私こんなプータローみたいなもんですから、うろうろしてるじゃないですか、そしたらね、セールスマンが御主人３交代ですかって、３交代って何って、３交代という言葉知らないんですよ、広島に住んでるやつはね、そのぐらい大竹って変わったまちなんですよ。企業から議員が出てきて、たくさん、あの先生はもう一定数持っていきますよね、そういう支配下にあったところのまちが決めた３時間休憩だろうなと、３交代というのも含めてですよ、今だったらそれこそセブンイレブンもありますからね、もう２４時間営業の時代ですよ。だからそういう意味じゃあ休むのは自由ですけども、申合せというのはね、ちょっともう時代遅れかなというか、少なくともね、公職選挙法違反かどうかはさておいて、岩国でしてないでほかの似たようなまちでもしてないんだったら大竹もやめたらっていうけど、ただ、本音からいうとね、昼時間休憩できたら楽なんですよね、暑いですしね、そこのところと現実と建前と本音の違いがあって、私は昼休んでますけども。でも、気がついたら言い合ったらいいと思いますので。

○網谷委員長　12時から３時までの休憩ですか。大体選挙の事前の全員協議会になるんかね、会派になるんかね、あの場で大体申合せをするんですよね。選挙の何日か前でしょうけど、その辺のところは分からんのですが。

日域委員。

○日域委員　一つは、大竹市の面積が少し狭いのもあるでしょうけども。私は直接関与したことはないけども、和木町の選挙ありますよね。皆さん長い時間蜂ヶ峯でたばこ吸いよるという話は聞きますよね。あの狭い町を12時間も、走れないですからね。だから結果的にいろんな形で休みになるのは自由ですけども、大昔にした申合せが生きてるんでしょう。

○網谷委員長　それもよく分からんのですがね。

○日域委員　だから、私も出たときにね、現職の人たちはこんな申合せをしてますと。だから新人の方も協力と言うたか、御理解と言うたか、お願いしますというのは言われた記憶がありすけどね。

以上です。

○網谷委員長　ありがとうございます。一応申合せですからね、強制ではございませんので。その辺のところは各議員さんの感じ方が変わってくるかと思います。

そのほかにございましたら。

原田委員。

○原田委員　今の申合せの件について。撤廃してもいいのかなと思うんですが、これから補欠選挙、来年選挙があって、申合せで生きているのであれば、それは上手に使えばいいことだと思います。公職選挙法違反かどうか分かりませんが、先ほど委員長言われましたように、別に強制ではないんでしょうから、皆さん個人が考えればいいことではないかなと

思います。

本題に入るんですけど、費用的なことの規制というのはなかなか難しいかなと思います。皆さんいろんな戦略があったり、お考えがあったりとか、自分のできる範囲でされているんでしょうから、費用的なこととか、選挙にお金がかかるということで、ハードルを下げるという意味で、議会として費用を下げる何か手だてがあるかと言われるとちょっと私はないというか、するべきでもないのかなという気がします。

以上です。

○網谷委員長　ありがとうございます。

ほかに。

小中委員。

○小中委員　公職選挙法違反というのは、これ強制したらという意味でね。

それと、ハードル下げるというのは非常に難しいと思います。まず一般の市民の人にね、議員ってどう思ってるんかって聞く機会があればね、一つの手かなと思うんですけどね、藤川さんみたいに個人的にやってはる方もいますけど、そういう機会があればね。

それともう一つ思うのは、議会報告会で、もっとざっくばらんなお互いに言いたいことを言い合って親交を深めるというかね、そういうのもあってええんやないかなと思います。機械的にこうやったらハードルを下げるというのは非常に難しい。どうしたらハードルが下がるかいうたらこれはという妙案はない。だけど自分がこれはこうだと思うと思うのをやってみることになるんかなとは思います。

はっきり言って市民がいわゆる先生と言いながら中身をばかにしてるんじゃないかなというのもあるわけですよ。

私はいろんな、市議よりも自治会長のほうがよっぽど偉いんかなというような気したって、何ぼでもあるわけで、一般の市民が市議ってどういうふうに思うとるんかちゅうのを個人なりで調べてみて、どうしたらいいんかちゅうのを探るのも一つの手ではないかなと思います。実際それは個人でやるのか、まとまってやるのか、そこら辺のところはあると思いますけど、何らかの、こうやったら下がるというのは、私はちょっと見当たりませんね。

○網谷委員長　ありがとうございます。市民からの意見を聞く一つ方法が、議会報告会という企画があるんですがね、やっぱり若干の規制はありますよ。今の議論に対してはこういうふうな答弁をしようとかね、それから、最初からもう委員会の項目を報告するというようなこともありますし、それかえってフリーにしますとどれだけ時間があっても足りませんしね、その辺のところはこれから議会改革、報告会の中でも意見が出ればと思います。

原田委員。

○原田委員　せっかく議会報告会の話が出たので。形式的というかね、何か箱の中に入って、そこにみんな来て、何月何日何時に来てくださいって、何かそのほうがハードルがすごい高いような気がするんですね。例えば、できるかできないかは別ですけど、商業施設なんかで空き店舗があったりとかして、そういうところで日曜日に議会報告会とかですね、皆さんが比較的見れる場所でやるとか、直接その話を議論する人もいれば外から見るという

方もいらっしゃるでしょうし、私もいろいろまちを歩いていろんな人の話を聞かせていただくんですけど、議員何人知ってますかって言ったら、知らない方も、会ったこともない方もいらっしゃる。我々のほうから出ていくというか、意見交換会とか何でもいいんですが、来てくださいじゃなくて、我々のほうから行きますよというようなものもやっていく必要があるのではないかなと思います。可能か不可能かは分かりませんけれども、先ほどの議員が、一人一人が広報マンとなってということと似てるんですけど、我々が出ていって積極的に話しかけるような体制、そのような報告会なり意見交換会なりがあればもうちょっと身近に感じていただけるのかなって思います。

○網谷委員長　ありがとうございます。今、皆さん言われていることが議会条例の中でも触れておると思うんですがね、その辺を含めて、来年も班長会議があります。その班の中でしっかり意見を出していただきましてね、出張講座とか、出張報告会、そういう提案も含めて皆さんが班の中で意見をまとめてね、班長会の中で発表していただいたらということもございます。議会改革特別委員会としましても、そういう意見は出していこうかと思いますがね、そういうのを含めて、これからいろんな会の中で発信していただいたらと思います。

小田上委員。

○小田上委員　御意見聞いてて、やっぱり市民の方の声を聞くという作業はもちろん必要だろうと思います。ただ、議会として、議会の総意として、この中で決め事をつくって、何かハードル下げれないだろうかという趣旨でこの設問を捉えてたので、だったら申合せ事項があるよね、それで決めて選挙やってるよねという一つ案として出させてもらったので、個人でできることというのは、幅はたくさんあって、意見出てくると思うんですけど、議会として取り組めることに絞ったほうがいいのかなと。それ以外どうなのって言われると、ぱっと出てくるのは前回も言いましたけど政務活動費のところの使い勝手というか、金額の部分は個人的に思うところはありますし、そういう議会の中で決められるという点に絞らないと、個人的にできることはいっぱい出てくると思うんで、そのほうが話を進めやすいのかなとは思いました。

○網谷委員長　そうですね。これが今回ハードルだけに絞っとるわけでございます。無投票を回避するための打開策ということを、議会改革の中の３項目の中の一つに大きくウエイトを占めております。その中にいろんな皆さんの意見が入るということでございます。打開策について、皆さん意見を発言されておるわけでございます。これを一応集約せねばならないということなんでね、その集約方法をどのように持っていくかということでございます。

北地委員。

○北地委員　私もハードルを下げるためにというテーマでいろいろ考えてはいるわけではございますけども、今までのアンケートの中では、こういったハードルを下げるということでいろいろな意見も出ております。例えば、行政が立候補者を増やす努力をしていないと、選管がどういう働きをしているのかということも一つあろうかと思います。選管の事務の取扱いについてどのようになっているのかというようなこともちょっと分かってはないと

思うんで、そういうところもちゃんとすればＰＲしていただいて、立候補者増えてくるのかなと。行政の対応いうのもあるかとは思います。

それから、市民が政治に関心・興味を持たせるための取組をしたらどうかとか、議員の仕事、報酬等について再考すると。こういうのもありました。議員の仕事に魅力を持たせることをするべきであるとか、年金・保険などの法整備を行うとか、市民を議会に招く、意見交換をするというような、打開策、ハードルを下げるための提案はいろいろあったとは思います。こういうこともしっかり議論していけばいいのかなとは思っておりますけども、そのうちの関心・興味を持たせるとか、議員の仕事という面では、この特別委員会設置されてから、前半の２年で委員会の中継とかそういったＳＮＳ、フェイスブックをやろうということで、議会の報告を市民に目を向けてもらうということでいろいろ取り組まれているわけです。その辺りの検証、これは今後委員会の中でも議論していくということで、今据え置かれておりますけども、そういったところを充実させていくのも一つの手かなというのもございます。

それと今、関心を持ってもらうのは、やっぱり市民との対話かなというのが一番にあろうかと思います。先ほどから出ているように、個人でするのか議会としてするのか、個人では会えばそういった話は出るとは思うんですけども、議会としてどうやって取り組むか、そういったことも一つ考えたらどうなのかと思います。

それから、市民を議会に招くとか意見交換をする、これは先ほどから出ておりますように、議会報告会、そのありようをもう少し考えればその辺りでまた取り組んでいけるのかなと。先ほどから出ておりますけども、議会が出向いていくのか、報告会とは別にやるとか、そういった取り組み方ですよね、その辺の議論したらいいのかなと思います。そういう中でも、モニター制度とか、アンケートとかそういうのも出てくるんじゃないかとは思いますけども、そういった取組で市民との接触を持っていくとか、そういうこともできるんじゃないかとは思います。そういった方策を考えていくことでハードルを下げていくということもできないかなと思います。

今までのはアンケートの中からの取組をどういうふうにしていくかということであったんですけども、もう１個あったのは、選ぶ権利を放棄したのがさきの選挙に立候補しなかった市民であるという意見もございました。この辺で、これで立候補者が少ないというのが議会だけの責任なのか、ある意味市民にもあるのではないかと、その辺のところも議論が要るのかなと思っております。市民の責任という意味合いも考えたらどうかなというところありますけど、それをどうするのかということになるとなかなか難しいところだと、そういったこともちょっと頭の中にはあります。

打開策として一番あるのは報酬かなとは思います。これを上げれば結構ハードルは下がるのではないかなというところあります。正直なところ。

それとか、先ほどから出ました、議会の中でできるといえば政務活動費、こういったものの使い方とかいうのもちょっと考えればいいのかなというのあります。

小中委員も言われますように、実質のところハードルを下げる具体策というのはなかなか難しいとは思いますけども今述べたようなことを充実さすとか考えていけば少しはハー

ドルは下がっていくのかなというふうには思っております。

こういったところを今考えておるところで意見として言わせていただきます。

○網谷委員長　ありがとうございます。これ全部の項目に当てはまるような気がしたんですがね。今の北地委員の意見に対してどうでしょうか。

まず、日域委員、先ほど手を挙げられてました。

○日域委員　今の北地委員の話は、よく、幅広く、まとめていただいたという気がしました。

ただ、皆さんが発言してることが今回ここにあるハードルを下げることになるかなっていうね。ハードルを下げるって表現が難しいですよね。定数決まってるわけですから。報酬が倍になったら出たい人が増えるだろう、それを果たしてハードルが低いというかですよね。逆に議員になろうと思ったらハードルが高くなりますよね、いっぱい出てくるわけですから。だから、ハードルを下げるという言葉がね、結局無投票回避ということになるんですけどもね、無投票回避だったらやっぱり定数削減しかないよねって。ほかのは何を言っても、ゴールにたどり着けないんですよね、理屈で幾らこねてもですよね。そんな気がしてます。難しいです。

○網谷委員長　今、日域委員が言われたように、とにかく全部が絡んできますから、それを検証、深掘りということで協議しておるわけでございます。アンケートの中で３項目、その他も入れて４項目に分けて検討していただいたんですがね、このアンケートって、皆さんお一人お一人物すごい真剣に考えて文章にしていただいたと思いますよ。みんな自分なりの意見を持っとる方ばっかりでございますので、それじゃその意見に、みんなに合わせていこうじゃいうことにはなかなか難しいのではないかなと。

副委員長、何かありましたら。

○西村副委員長　私個人的な意見として、先般から議会改革特別委員会をこうやって開いて、皆さんの意見をお聞きし、無投票についての打開策とか、あるいは定数削減についてという大きなテーマがあるんですが、今この議会改革委員会で何を取り組むかいうのは、議会報告会一つにしても、全16名の議員が集まって一遍にすりゃいいじゃないかいうのも、新しく出る人のチャンスを与えるんですよ。もう一つは、当然、経済的な負担がかかります。公費を使ってというけど、公費をしゃにむに使えば市民からの反論が出てきますよ。やっぱりある程度現状の中でやっていくいうのも一つ。そうすると、今我々が議会改革としてどうするかいうのは、若い人が出やすい環境をどうしてつくるか。これはそれぞれの問題があるので、結論はないにしても出やすい雰囲気はどうかと。このたびも補欠選挙に３名の方出る予定と今日の中国新聞に記載されております。実際蓋開けてみんと分からんですが、議会として何をしてあげるかはできないじゃないですか。議会としてどこまで手助けができるか、そういうところが私自身は矛盾を感じるんです。どこまでどうするかいうのは、個々の議員の考え方なんですよ。だから、議会改革特別委員会としては、成り手不足はどうしたらいいかいうのをまず一つ方向づけを決められたらいかがかなということが１点。

もう一つは、公的な経済的な援助を受ける中で規制をいうのは、先ほどからいう12時から３時までは回るまいとかいう部分もあるけど、それなんかについても取決めか、あるい

は申合せにしても、もっともっとはっきりしたものをやっぱり出る人に知らしてあげんと、これからも分からないままでそのまま来るいうのも一つの考え、矛盾を感じるんじゃないかと感じます。

それから、もう一つは定数の問題です。庄原の議会も、議長の言葉では、現状のままじゃないかというのが大きく新聞に載ってます。協議する前にそういう結論が出るいうのは、あそこは、1,000キロ平米ぐらいの、大竹市の15倍ぐらいの広さの地域ですので、当然定数を減らして何ぼの議会じゃないんですよ。地域の声を聞く、地域から議員が出るというのが、一つの地域の皆さんの考え方で、大竹の場合はもっともっとほかの議会改革をすべきじゃないかと、私個人では思います。

先ほどから繰り返していますけど、ＳＮＳで流すのも一つの方法、ユーチューブでやるのも方法、それどこまでやるかいうたら、全体をやったらどうかいうのも一つの改革案なんです。だから一部分だけやるんでなしにそういうことも併せてやると。

それと同時に議会として、特に行政側にお願いしたいのは、もっともっと費用をかけて市民に全体の状況が伝わるような機材の整備いいますか、そういうものもお願いしたいと思います。例えば、市役所の中のロビーのテレビに委員会とか本会議が放送されながら、市民が見れるような雰囲気にはなってないじゃないですか。もっともっと議会を皆さんに知ってもらうために、我々も議員としてそういうＰＲもやらないけんし。

それから、願わくば会派の方針なんかも発表してもいいんじゃないと思いますよ。それぞれ１人会派もあれば３人会派も、２人会派もいろいろあると思うんじゃけど、そういうのでもっともっと市民の声を吸い上げるのも私は議会改革と思います。

ただ定数を減らそうとか、歳費を上げようとか、政務活動費を増やそう、そんなもんじゃないんですよ。皆さんからの税金を頂いて議員活動をするわけですから、まだまだ捉え方があるというふうに、皆さんの意見を聞いて感じたまでございます。

以上であります。

○網谷委員長　ありがとうございます。

議長。

○賀屋議長　今日のテーマに対しての皆さんの議論、まず、ハードルを下げる方法ということで始まったかと思うんですが、じゃあ何がハードルなのか。そこの前提の部分がまだ議論されてないと思うんですよ。さっき北地議員が、皆さんの中での意見の集約もされましたけども、それの中でもハードルがどれなのかという部分をまず絞って、そのハードルをじゃあどうやって下げるのか、下げれるのか下げれないのか、その辺の議論をすべきではないかなと感じました。

このアンケートの一番最後のところですね。立候補へのハードルを低くすることという言い方の中に、女性や若い世代の幅広い議員を目指していただくためには、これらの市民をいかに招いて、または議会から出向いてという記述があります。こういうことが本当にできるのかどうなのか、どういうふうにするのかということの具体的な意見ですね。それと、その次に、資金不足が理由で立候補をためらう市民に現金の貸出し制度をつくる。お金がないけん立候補できんという方に対して、確かにハードルを低くするという方法かも

しれません。ハードルがほかにあるのかどうなのか、この辺から議論をすべきではないかなと感じました。

以上です。

○網谷委員長　一つのハードルといってもいろんな意味が含まれておるんですが。

原田委員。

○原田委員　今までの議論を聞いてる限りハードルを低くする手だてがあるかと問われるとなかなか難しいのかなというふうに感じます。小田上委員から言われた、議会の中で何ができるかということに議論変えたほうがいいのかなと思ったりしてます。

議会の中で何ができるかというと、先ほどから出てる政務活動費の問題、貸付けができるのかできないかというお金の問題ですよね。それから、情報発信。ＳＮＳであるとか、議会だより、すごく刷新されていいものになってきてるのかなと私は感じてますのでそういうものですよね。もっと若い人たちに議会だよりを見てもらいたいと。

そういうものと、先ほどからいろんな方から言われている、身近に感じられる存在。議会報告会を公的な場所でないところでやるとか、例えば、この委員会がここでやらなくてはいけないのか、もっと市民に近い場所でできるんじゃないかとかですね。そういうものも含めて、ハードルを下げるというよりは、議会の中でじゃあ何ができるか、どんなことができるかということを考えていくほうが私はいいんじゃないかなとこの議論を通じて感じました。

以上です。

○網谷委員長　ありがとうございます。皆さんの意見聞いておりますと、意見がすごく膨らんできよりますね。

北地委員。

○北地委員　今皆さんの意見を聞く中で、ハードルというのは何かとかありましたけども。確認するんですけども、無投票を回避するための打開策として何があるかといえば定数より立候補者を増やすことということに尽きると思うんです。増やすということは、立候補者が多くなるということで、立候補しやすい環境づくりのために何ができるかということをまとめていきゃいいんですよね。そういうことですよね。

○網谷委員長　それがハードルを下げるという。

○北地委員　それがハードルを下げる。それは、出にくい障害は何かというのがハードルですよというところで考えていけばいいんですよね。

私がさっき言いましたように、いろんなアンケートに出ている意見のハードルを回避するための打開策について多少なり意見は述べたんですけども、その辺りを考えていけばいいということになろうかと思うんですけど、いかがでしょうか。

具体的にいえば、市民との対話を広げていくとか、そういったらどういう方法があるのかとか、先ほど出たように議会報告会のありようを、それをどうするのかとか、議会報告会、意見交換会、いろいろな方法出ておると思うんですけども、そういうやり方はどうなんだろうかとか、そういったところを議論していけばいいのかなと思うんです。

○網谷委員長　ありがとうございます。確かにハードルを下げるということはいろんな意味

に取れまして、昨年の９月に議員定数の問題、これ一本で行こうということは皆さん承知と思うんです。こういう議論になる予想がされたんですがね、９月から今までずっと同じような議論を今やってきとるわけでございますよね。それで、人によれば何も進んでないという、そういうふうな解釈になるわけでございます。

今北地委員が言われたのごもっともではございますがね、立候補のハードルを低くする手だて、女性、若い世代との意見交換の機会を持つ、もちろんこれも大事、それで、選挙資金の貸出し制度、もちろんこれも大事。これを一つ一つ解明していけばハードルが低くなるということが解明されると言われるんですがね。そういうことになりますと、この16人の方の意見も皆関連しとるわけでございまして、その辺のとこが。

小田上委員。

○小田上委員　委員の皆さんが言われているように、即効性のある打開策、無投票の打開策というのは難しいだろうと思います。ただ、課題として、議会報告会の在り方を考える必要がある。議会報告会は基本条例で決まってますから。それとはまた別で公聴会みたいなものを開くとか、そういうところをやっていく必要があるんじゃないかとか、お金の面も出ましたけど、ちゃんと考えていくべきじゃないかという意見があるということに対してもう少し、それをどうしたらいいかねというのを掘ってみて、どうやったらできるか話してみてやっぱりそれは時間かかるということになれば、委員長のまとめとしては、先ほどから皆さん言われてますけど、即効性のあるものはないけども、今後こういうところに取り組んでいかんといかんねというまとめ方になるのかなと勝手に想像してます。ただ、課題として上がっているものについてもう少し話をするのはいいのかなと思います。

○網谷委員長　これは多分時間幾らたってもこれでよしいうことはないと思います。それでよければ皆さん、そういう方向で議論していったらいいと思いますよ。

原田委員。

○原田委員　小田上委員と同じような意見なんですけど、ハードルを下げるということも議論はちょっともう行き詰っているというか、なかなか難しいのかなと思います。小田上委員言われたように、議会の中でできることは何かという課題を抽出することがまず一つ。それがまさに議会改革なんじゃないかなと思います。その後、それを議論していくかどうかとか、まず課題として出して後に議論するのか、まずそこまでやっていくという、小田上委員と同じ意見じゃないかなと思います。

以上です。

○網谷委員長　ありがとうございます。もちろん改革をするために皆さん議論させていただいておるんです。この改革をするために、４年前に皆さんから要望書が出とるわけですよ。それで、昨年９月、皆さん一致で、議員定数の在り方、これ一本で行きましょうと言われたんですよね。

議員定数、最初の付議事項は議員の成り手不足ということでございます。議員定数の在り方について協議しよるわけでございます。その中に議員定数と無投票の関係とか、無投票の回避、打開策とかいうのを絞って設問をつくって、昨年の12月に全16名の方のアンケートをいただいた経緯がございますよね。

藤川委員。

○藤川委員　今、小田上委員と原田委員がおっしゃった意味合いは、ハードルを下げることに対しての意見が出切ったのでやめようと、今から議会ができることに切り替えんかというふうに私は捉えたんです。今から議会として、議員定数問題について語ろうという意味合いに捉えたんじゃけど、違うんですかね。

○網谷委員長　もちろんそれでいいんじゃない。

小田上委員。

○小田上委員　今回、このハードルって何なのっていうのを持ってこようっていうのがあったと思います。話聞いていると、立候補までのハードルと当選までのハードルがごちゃごちゃになってるのかなという気がするんですね。僕らが下げないといけないと思っているのは、立候補へのハードルなんですよ。立候補へのハードルが下がると、当選へのハードルは、上がるんだと思います

前回の議論でも選挙があったほうがいい、熱意があって思いが強い、そういう素質のある人が選挙を経てなるべきだという意見があって、それをするためには、やっぱり立候補へのハードルを下げて、ちゃんと選ばれて当選するというところなんだろうなと勝手に思ってました。

さっき選挙カーの話もしましたけど、じゃあそこをハードルだと仮定したら、現役世代が、一つの問題、事柄の一つとして選挙カーって大変だよね、僕ら世代は選挙カーなんて要らないよっていう世代がいっぱいいるもんですから、とはいえ、この大竹の中で選挙カーなしっていうのはちょっとねという、いろいろ思いがあるわけですよね。そういうところで、議会として、だったらその立候補までのハードルで一つ申合せっていう、そういえば面白いものがあったなと思ったので出させてもらいました。

こういうのはどう、こういうのはどうっていう意見、テーマは上がってきたので、その１個ずつについてでいいと思うんですよ。この上がったその件についてどうかねっていうところを１個１個できたらいいのかなと思いました。

○網谷委員長　ありがとうございます。

１時間ちょっとたちましたので暫時休憩させていただきます。15分から。

14時06分　休憩

14時15分　再開

○網谷委員長　休憩前に引き続き会議を行います。

今の小田上委員の提案というんですか、それから取り上げていきたいと思います。

原田委員。

○原田委員　選挙に対する考え方というのが、若い世代と70以上の高齢者の方のお考えと、それぞれ違いがあるかなと、小田上委員の意見を聞きながら感じました。そこまでお金かけて選挙やらなくていいんじゃないかという声もたくさんありますし、その逆もあると思います。それを議会として、やっちゃいけない、これやりましょうとかいうような規制をかけることは、議会のやるべきことではないのかなというふうに感じます。ただいろんな、小田上委員がそういうふうに言ってくださって、若い方の意見だと思いますので、そうい

うものを１個１個出していきながら、それで議論をして、ちょっとこれは議論にならないとか、ちょっと難しいよねということになったらそれを１個１個潰していくというやり方をしていったらどうなのかなと思います。

以上です。

○網谷委員長　ありがとうございます。

今、原田委員が言われたように、規制をかけるべきではない。それは確かに、そのために今申合せというふうな今手段を取っておるわけでございますのでね、これを規制いうことになりますと大変法律の問題も出てくる、難しい問題だと思います。

ほかに意見がございましたらお伺いしたいと思います。

小田上委員。

○小田上委員　自分で言っときながらあれなんですけど、選挙カーの件については、絶対そうしたほうがいいと思ってるわけではありません。手段の一つとしてそれもあるんじゃないかという程度で出したので、むしろここまで話してもらってありがたいなと思うくらいです。申合せ事項でそういうことができてたということで、一つとしてそういうところもあるんじゃないかなというのがきっかけでした。選挙カーって基本的に公費出ますよね。公費使ってない選挙カーももちろんありますけど、ガソリン代出るとか、運転手代が出ますよとかいうところが公費でありますというところで、メリットとしたら公費負担が下げれるとか、あと本当に、日中に時間を割いて平日に運転してくれる仲間を見つけるとか、選挙の期間中事務所におってくれる仲間を見つけるとかっていうのも、議員になりたいって思ってるんだったらそういう人脈をつくってやっておくのは当たり前だと言われればそうなんでしょうけど、なかなかそれだとやってみようという思いだけだと難しいのかないうところがあったりするので、立候補までのハードルでこういうのがないよということであれば、ぐんと下がるのかなという思いが単純にしたのでどうだろうかいうふうに言ってみたまでです。

ほかにも経費的、財政的な面でも市民の方に恩恵というか、そういうのもあるのかなと思ったりはしました。絶対ではないので、そういうふうに思って、テーマに上げたというところです。

○網谷委員長　ありがとうございます。

原田委員。

○原田委員　今の小田上委員の発言聞いてまして、議会としてできることってなると、先ほど、貸付けのお話もあったと思うんですけど、細々したこととかをどこまで公費で見るとかいうことも議論していったらいいんじゃないかなと思います。もちろん全額とか、出馬される方に全部面倒見ますよということは絶対あり得ないので、何かこれはちょっと絶対必要だし、これ公費あったらいいよねとかというのを、多分皆さんそれぞれ選挙に出られるときに経験があるんじゃないかと思いますから、もう少し公費負担の枠を広げるとか、小田上委員が言われたことと違うのかも分かりませんけど、そういうのも何か議論の上に上げてもいいのかなと感じました。

以上です。

○網谷委員長　ありがとうございます。今の原田委員の問いかけには、若干ニュアンスも変わってくるんですが、それに対して意見がございましたら。

小田上委員。

○小田上委員　選挙カーについてはもう意見が出そうにないので、公費の貸付けのところでちょっと考えてみようかなと思うんですけど。貸付けの件でいったら、僕が結構好きだった政治家の言葉で、供託金が出せない程度で政治家を志しているのがおかしいとかですね、政治家を志したんだったら供託金ぐらい用意できるよっていう極論みたいなことを言っている人もいました。その気概を持って準備をしていたというところも自分自身ありますし、やってほしいなという思いはあります。なので、貸付けが大手を振って、結局貸したところで戻ってくるのも公費で支払った分が戻ってくるんだろうなとか、何かそう考えると出す順番が違うだけでいいのかもしれないなと思ったり。ただ、公費を、税金を借りて立候補するわけですよね。となるとなかなか市長の文句が言いづらいというか、この制度をつくっているところに意見言いづらくなるんじゃないかなという心配だったりあります。

この大竹市の場合、最低限は供託金というところで、あと細々言って50万あれば一通りの選挙ができるんじゃないかというようなところで、そこに行けないというのは、まず自分自身の生活を見直して、自分の面倒が見れないとやっぱり市民のことというのも考えられないのかなと思ったりはするので、法律上できたとしても心情的にはそこまでしなくていいんじゃないのと思ってます。

○網谷委員長　ありがとうございました。資金面という話にもなってきましたね。どんどんお話が飛躍していきますので、その辺のとこを覚悟して皆さんも答弁のほうよろしくお願いします。

今の話について何かあれば。私はこう思うとかいうのがあれば発言していただければと思いますが。

北地委員。

○北地委員　これ質問ですけどもね、こんなことできるんかなというのが正直なとこなんですけど。これ誰が貸すんですかね、市が貸すんですか。

○網谷委員長　それは16番の方がいろいろ調べとるんでないですか。

○北地委員　市が貸すのか、議会が貸すのか、そういうのがあるんですけど。

銀行に借りるなら御自由にですけども、これは公費という意味だろうと思うんです。できるのかどうか大分疑問なので、この辺りは宿題にしとったらどうかなと思います。

議会でできることの中で、議会は当然こんなんできんと思うんで、その辺は宿題なんですけど。これに関連ということでもないんですけども、一番最初に言いました選管、これが真っ当なことをしとるんかどうか、真っ当なこと言っちゃ悪いんですけども、責務を果たしているのか。選挙ありますよいうＰＲはするんですけども、立候補者を増やすようなことを、これも業務の一環なんですかね、選管。私はちょっとその辺詳しくないので知らないんですけども、ここをちょっと調べてみたいと思います。そういったところをしてもらうのも必要かなというのは一つあれなんですけども、皆さんの御意見を。

○網谷委員長　原田委員。

○原田委員　今の貸付けも含めて公費負担がもう少し広げられるものなのかどうなのか、その辺りが分からないので、まずちょっと調べてから議論なのかなと思うんですが。

○網谷委員長　ありがとうございます。調べていうことは、議会改革が調べるということ。誰が調べるということ。誰に調べてほしいということ、委員長に調べてほしいということか。

私も皆さんに先ほどから聞いてるんですがね、これは何ぼでもハードルについてだけでもすごく質疑に関しては膨らんできます。それを皆さんがやろうか、やりましょうということなんですからやるんですがね。しっかり皆さん答えてください。答えると同時にまた質問を出してください。

小中委員。

○小中委員　政策実現能力があるのかというのも当然なんだけど、それがあと１年ちょっとでって、実際そんなことができるのかどうかというのもあると思うんです。

こないだ無投票の次定数削減してるかどうかというような資料がどうのこうのという話のときに思ったんですけど、何でもかんでも議会事務局に丸投げするのは私は不適切だと思いますね。パソコン見て調べられるんやから自分で調べろよと。何でもかんでも人にやってくれって丸投げしたらあかんのやないかと思いますけどね。自分が疑問に思ったら、パソコンを開いて調べりゃええやないかと。

いずれにしても、何でも議会事務局にやってもらおうじゃなくて、まず自分が疑問に思ったら、パソコンか何かで自分で調べろよと、私は言いたいですね。

○網谷委員長　原田委員。

○原田委員　そうですね、私も調べたいと思います。ただ、今の公費とか貸付け制度とか公費どこまで枠広げられるかとかですね、貸付けの問題、お金に関する問題ですよね。政務活動費の話も出ましたけども、じゃあそれを増額するのはどうしたらいいか、来年まで間に合うかとか、誰が調べるかとかいう問題があると思いますので、皆さんの意見や、知ってる方いらっしゃったら教えていただいて、私がもし調べれるんだったら個人で調べたいと思うんですが。

○網谷委員長　それも皆さんに聞くわけ。

○原田委員　はい。知ってる方いらっしゃったらお願いしたいと思います。

○網谷委員長　小中委員。

○小中委員　議会条例というのはパソコンに上がってるわけですよ。まず何を調べたらいいのか、それを考えるのも議員の資質ですからね。何でもかんでもこれを調べるのどうしたらいいんや、そんなもん自分の頭で考えろよと私は言いたいですよ。

○網谷委員長　はいどうぞ。

○北地委員　こういう問題があるいうのを提案しただけで、もし分かる方いらっしゃれば教えていただきたいという提案なんですよ。分からなければ調べますよ、それは当然ね、そういうことです。

○網谷委員長　原田委員、何かあれば。

○原田委員　今の公費、枠どうするかとか、枠が広げられるかとか、まずその貸付けが、貸

付けはどうなるか分かりませんが、公費の枠が広げられるかどうかというのは、言われると確かに調べれば分かることですので、その辺りは私個人で調べてみたいと思いますが、この調べたことをここで発表するのかどうなのかちょっと分からないんですが、ただ、私的には公費の枠を広げられないかという提案をしましたので、それは私の責任において調べてみたいと思います。

○網谷委員長　委員会としての議論をこういう方向でいいのかどうか、ちょっと私自分の頭でちょっと理解できんのですがね。もうそれで皆さんよろしいということで今やりよるわけでございますのでね。

小田上委員。

○小田上委員　ここの流れを聞いてて、委員長が不安に思われるのも分かります。ただ、進んでないように見えるけども進んでるんだろうと思います。内容に踏み込んだ話をして、テーマが公費。こういう選挙に当たる公費の枠を拡大できるのか、できないのかというところに行ってるんであれば、どうやらできるようだがぐらいは調べてどうなのかという提案が、本当の話、今この場で調べたところこういうふうにできると思う、だからやったほうがいいと思うというのが一番筋のいい提案の仕方だとは思いますが、話をしている中でじゃあこれはどうなのと出てきたものだと思います。なので、それについて法的な解釈、決まりというのは選管に問い合わせるなり方法があって、ただ、この委員の中でそれはもう法律云々よりも筋が悪いよねと、例えばですよ、僕からいえば、選挙なんていうのは公費をかけ過ぎだという市民の方の声を聞きます。じゃあ公費一体どんだけ使ってるんだ、お前が議員になるのにというので、確かに僕もポスター代とか公費でいただいています。供託金なんていうのは当選させてもらったら戻ってきますと。手出しは幾らぐらいでした、でも公費でも幾らか出してもらってますというところで、じゃあその市民の方の感情を考えたら、公費の枠広げるっていうのはちょっと難しいんじゃないかなという気持ちはしてます。という話はできるのかなと。法的なたてりのところは無理だとしてもですね。これが次回に持ち越し、進めたらいいよねとなったときに法的なたてりはどうなんだろうと、難しいよねとなればオジャンだし、行けるよねとなったら進めるという話の一つとしてはいいのかなと思います。

公費を広げるということに関しては、個人的には、なかなか市民の方の理解を得にくいんじゃないかなとい思います。ハードルを下げるというところにはつながるかもしれないですけど、ハードルを下げると同時に税金を使うとなるとなかなか理解を得られないかなという思いです。

以上です。

○網谷委員長　ありがとうございます。最終的にハードルに戻ったけちょっと安心したんですがね。要するにハードルの話ですよね。それから、小田上委員が選挙カーは必要なのかどうかとか、それまではこの休憩前までで、休憩以後は選挙カーは要らないんじゃないとか、申合せとかいろいろな話から今の原田委員の話になったんだがね。

原田委員。

○原田委員　要は、ハードルの一つが、お金の問題なのかなと思ったので、貸付けというお

話も出ましたし、公費でどこまでできるのかなって、もしできたら少しは出やすくなるのかなと思っただけで、先ほど小田上委員も言われたように30万もないという人が出るといってもなかなかそれは難しいよねとか思うし。ハードルを下げるという議論だったので、公費の負担ももう少し枠広げてもいいのかなと思っただけで、特に私が広げたいとかいうことではないんです。ハードルを下げるという意味においては、やはり何がしか貸付けも含めて、もうちょっとだけでも公費負担すれば出やすくなるのかなっていう、それぐらいの気持ちだったので。でも一応私が提案した手前もありますので調べてみたいと思います。

○網谷委員長　よろしくお願いします。

これからもいろんな問題があろうかと思いますがね、そういう場合は、ある程度この問題に対しては、調べるところは調べて、こうこうこうなんじゃが皆さんどう思いますかというような流れに行ったらちょっと話がスムーズに行くんではないかと思うので、それはその辺でよろしいですかね。

小田上委員。

○小田上委員　選挙カーなしっていうのはちょっと難しいよねっていう雰囲気だったと思います。申合せ事項にしてもですね。

公費の拡大というのについても、ごめんなさい、広げるのは難しいよねっていうところに行ったのかなと勝手に思ってます。なので、次ですね、多分広聴活動というか、議会報告会の在り方についてちょっとテーマが出てたんで、そこに行きたいなと思うんですけど、議会報告会については、今のままだとよくないよねという感覚は皆さん持たれてると思います。その最大の理由が参加者の少なさから来るものだろうと思いますけど、であれば、中身をばっさり変えるのもいいと思いますし、その走りとして、例えば、議会改革で議員定数についての公聴会をやるとか、テーマに絞って意見交換をしていくというのはありなんだろうと思います。それがある程度うまくいった形式ができてくれば、例えばですけど広聴という関連から広報に引き継いで、広報公聴のほうでそういう企画を年に１回なのか年に２回なのかやってくれとかという流れにもなるかもしれないかなとは思いました。

ただ、一つ心配するのが、どうしてもざっくばらんにというのが議会というくくりの中でどこまでできるのかというところが心配で、そこのハードルを越えることができれば面白い広聴活動、市民の方の声を聞く活動というのができるのかなというふうに思いました。議会報告会で納得のいかないというか、消化不良があるのは、やっぱり議会としての方向性を持った回答しか市民の方にできてないというところもあると思うので、そこはどう持たせるか、個人の活動と議会の活動というところの区別ですよね、必要だとは思います。

○網谷委員長　どうもありがとうございました。

原田委員。

○原田委員　小田上委員と同じ意見っていう何かフレーズ多いような気がするんですけど、議会報告会のありようというのは考えなくてはいけないのかなと思います。大竹会館とかおがたピアとかでやりましたけども、そこに来る市民のハードルというは結構高いと思いますので、先ほど小田上委員言われたように、もっと違う場所でやるとか、参加するっていうかちょっと見ていくぐらいの感覚でできる場所があるのであれば、それが可能であれ

ば、そういうものも考えていかなければならないのではないかなと思います。

○網谷委員長　ありがとうございます。議会報告会のこと何か、今の質問事項に対して。

議長。

○賀屋議長　ありがとうございます。議会報告会は、この後、総括をやっていきますので、それの中でまた来年度以降どうするんかと。どういうテーマがいいのか、あるいはどういう会場の数がいいのか、時間帯がいいのか、そういうのを含めて再度皆さんの意見を集約して、次どういう形でやるかというのは決めていきたいと思います。そのときにまた全協なり開いて、皆さんに広く意見をいただこうということですので、そのときまでに案を温めておいていただきたいと思います。

それと、先ほどからの一つずつのハードルのことについて、対策についていろんな意見が出てきましたけども、全部のハードルを検証するというのは難しいので、やはり話も出てきましたように、この議会改革の中である程度取り上げれるもの、いわゆる対応できるものについて議論をしていただいたらと思います。それも将来の話でなしにこの９月までに結論を出すための今のテーマについての、取り急ぎ早急に結論を出さないといけないテーマについての議論にしていただければと感じました。

以上です。

○網谷委員長　ありがとうございます。ということで、議長にちょっと配慮していただいたんですが、その辺のところから、また違うところがあれば。16番の方の掘り下げといいますか、検証といいますか、女性や若い世代との意見交換の機会を持つという、こういうテーマもございますよね。今、選挙資金は議論になったんですがね、もう一つのテーマ、女性や若い世代との意見交換の機会を持つ。この辺のところで皆さんの意見がありましたら教えていただいたらと思うんです。

日域委員。

○日域委員　極端な話、若い女性の方が出てきたら当選しますよ。今この１時間ぐらい皆さんが話してたことはね、結局、無投票を避けるためにいろんなことを考えたけど、定数削減以外の方法はないねというのを１個１個潰していった気がします。

それで、確かに私も公費というかな、そういうことも考えましたけど、結局日本ほど議員なり首長なりに高給を払ってる国はないわけですからね、だからそう考えたらね、やっぱり定数削減しかないし、それをするかしないかを決めませんか。そうしないといつまでもこのエンドレスで時間が経過してしまいますので、そんな気がしました。

○網谷委員長　ありがとうございます。

今、日域委員の解釈では、やはり打開策は定数削減かなというふうな発言をされたわけでございます。

それで、今日はもう議員定数の問題は避けて通るということなので、一応そういうことをみんなで了承しましたわけなんで、これを避けて通りますと日域委員が言われるように切りがない議論になるような気もせんでもないんですがね。

原田委員。

○原田委員　日域委員が言われたように定数削減しかないというか、議論していって話を潰

していったんだけども、ハードルを下げる方法というのはなかなか見つからないし、議会としてできることというのは、即効性のあるものから中長期的に考えなくてはいけないものが出てきたと思うんですけど、これはまさに議会改革ですので、これから議論していくべきものなのかなと思います。

ただ、今回の定数問題というのは、もう６月ですから、少なくともここにいる改革のメンバーについては、ある程度意見というか自分のお考えが固まってきたのではないかなと思われますので、アンケートという形にするのか、ここで発言していただくような形にするのかは別としても、自分の考えを打ち出して、そこから議論をしていかないと、時間ばっかりたってしまって。具体的なものを提案しなくちゃいけない時期に来ているのではないかなと思いますので、私としてはアンケートか、少なくともこの改革の中のメンバーがもう具体的な数字、考えをまとめて、まず提示して、そこから議論していくというやり方をやっていかないといけないのかなというのが私の意見です。日域委員がまとめられたことと同じかどうか分かりませんが、そうするべきなんじゃないかなと思います。

○網谷委員長　ありがとうございます。今、原田議員が言われたことは前委員会の冒頭に私が説明したと思います。もう一度言いましょうか。７月からは予定どおりの結論に向けての具体策に入ります。７月から入りますということは、最初のスケジュールで皆さん御承知と思うんですが、５月、６月が若干の皆さんとの議論の余裕がございますので、それじゃあ５月と６月に議員定数についての議論をしましょうということで、12月に取ったアンケートの議員定数と無投票の因果関係、無投票回避の打開策、それから、議員定数の在り方、その他、皆さんからアンケート取った４項目を、この中で検証、深掘りをしましょうということを申し上げたと思います。月に２回ぐらいのペースで行こうか思うたんですが、今日のような、前回のような議論の仕方では、５回やっても10回やっても足らんのではないかなという議論のなり方になっておりますのでね、それで私が若干急ぐような口ぶりをしたんですが、原田委員が言われましたとおり７月からは入れます。結論に向けての具体策、それでその前々委員会か、日域委員が提案されましたアンケートの是非。やるのかやらないのか、それをまず決めて、やるならやるような方向性に持っていかないけませんので、まず最初に７月に入ったらアンケートの是非を皆さんに決めていただくということは言っとると思います。そのつもりでございますのでお願いします。

どうぞ。

○原田委員　アンケートはやるということで。

○網谷委員長　やるとは言ってないですよ。

○原田委員　すみませんニュアンスが違うのかも分かりません。私が言いたかったのは、定数問題をもう議論するんですよね。定数問題を議論する上において、現状維持なのか削減なのか、削減なら何人削減なのか、増やしたいという方がいらっしゃったら何人増やしたいのかということを明確に提示してもらったらどうなのかというアンケート。そういうのを明確に提示したほうがやりやすいんじゃないかという意味合いのことでした。

○網谷委員長　方法論ですね。ありがとうございます。

まずは７月の最初の委員会では、アンケートについて皆さんの意見を伺う、賛否を問う

ということで、やるのかやらないかただそれだけのことです。やるとすればまたいろんな方法も出てきますので。今月いっぱいまでには若干時間があるので、この今の４項目についての議論をしましょうということを申し上げたので、今その議論をしている最中でございます。

どうぞ。

○原田委員　確認したいんですが、今のこの議論を続けて、７月に入ってからアンケートをするかどうかをまず決めて、もししますとなったら、そこから９月までに結論を出すというようなやり方ということですね。分かりました。ありがとうございます。

○網谷委員長　その結果を踏まえてね。というふうに正副委員長は、一応考えております。

何か今のことについてあります。

どうぞ、小田上委員。

○小田上委員　ありがとうございます。個々の意見を委員が提示したらいいんじゃないかというのは、ちょっとできるようになったかなと思います。ただ、今、今までの、議事日程見てたんですけど、アンケートもらって、年末年始しっかり見てきてねっていう宿題をもらって年明け臨みましたね。その後議員全員で話し合ったような気がします。そこから２月以降ですね、もう議会報告会の話でしたね。ようやく話に入ってこれて、完全に整理はできてないんですけど、整理できたなと思う部分があるので少しだけお願いします。

議員定数と無投票の関係についてというところで前回とか前々回話してきて、定数と無投票というのはおおむね関係はないんだろうと、そういうところに落ち着いたと思います。無投票ということと定数が関係ないんであれば何だろうというところで、今回無投票を回避するためには何だろうというので上げてみて、金銭面だったり、精神面だったり、あとはいろいろ置かれた状況によってハードルがあるよねと。そこで議会が取り組めそうなこともちょっとありそうな気はしたというところだろうと思います。

プラスアンケートの中から見ても魅力が足りないじゃないかというような、魅力づくりが必要なんじゃないかというところで来て、じゃあ次の定数についてという話になってくれば、定数と無投票は無関係だったと。無投票を回避するためにはこういうハードルがあるよね、立候補するためにはこういうハードルがあるよねっていう話が出てきて、即効性がないものばかりだったといえばそうなんでしょうけど、取り組むべきことがやっぱりあるんだなというのが分かりました。

というところをもって次の定数のところに行くということであれば、個人的には議論足りてるとは思えないんですけど、ただこのペースでやっていけばいいんじゃないか。ペースというのが週１くらいでやっていっても正直いいんじゃないかと思ってます。

当初から本当にこのペースで大丈夫ですか、進んでませんよと、言ってきました。進んでませんよと言ってきたのはこのペースくらいで物事進まんねと言いながら、一体今何を話しとるんかいねと言いながらちょっとずつ進めていくというのを想定してたので、勝手にですか、大丈夫ですか、進んでないですけどっていうことを言ってました。なので、こういう整理でよければ定数のお話に入っていけるかなとは思います。

ただ、宿題もいっぱいあるよと、現状でできる宿題も、取り組めたこともあるんじゃな

いのというところは持ってますというところで、進め方については分かりましたということです。

以上です。

○網谷委員長　ありがとうございます。今、小田上委員が一番大きな提案をしていただいたんですかね。週１のペースで行ってもよろしいでというんですが、皆さんそれならそれでまた心づもりで思ってもらわないけんのですがね。私は前回も言いましたように、月２でどうかねと思いよったんですが、週１行くとなりますと倍いうことになりますので、皆さんがそれで行きましょうやということになりましたらそうしなければいけませんので、まず、一番大事な問題ができましたので、ちょっとそれだけ議論してみましょうかね。

原田委員。

○原田委員　いろんな日程とかもあるでしょうから、週１と決めつけなくてもいいとは思います。

○網谷委員長　大体ですよ。

○原田委員　大体なんですね。週１というふうに言われたので、週１と決めなくてもいいんじゃないかなと思います。

○網谷委員長　週１言われると週１の、そういうスケジュール組まないけんですからね、多分週１になろうかと思います。

○原田委員　例えばそのアンケートを取るということになるとそのアンケートの結果を待つのか、待たずに何か違う議論をしながらそのアンケートの結果を待つのかとかいろいろあると思うので、大まかなスケジュールは先ほど委員長が言われたとおりでいいと思いますから、それに従ってどのようなことを話し合っていくかという議論の内容とかを考えて、予定は決めていったらいいんじゃないかと思いますので、別に１週間に１回なのか、10日なりに１回なのか、それはもう皆さんで話し合えばいいんじゃないかなと思います。

○網谷委員長　ですから今ね週１いう数字が出たんでね、それに対して皆さんどう思われますかという問いを私かけとるんです、皆さんに。

○原田委員　なので私は週１にこだわる必要はないかなと思いますので、かといって月１ということではないということです。

○網谷委員長　ありがとうございます。

ほかに。どうですかね。

小田上委員。

○小田上委員　自分で提案しておいてこういうこと言うのもあれなんですけど、委員長の進めたい進め方があると思います。協議したい内容があると思います。ただ、いざ開いてみてやってみて、思うように行かなかったと思われていることも多いと思います。なので、早めに一度新しいところに踏み込むんであれば、早めのスパンで、新しい話題に入るときは早めに入っていただいて、例えばですよ、月２回でやりますっていうふうになったら後２週間後ですよね、やるとしたら。２週間後にやりますとなったら、この２週間の間は、委員は表立った宿題はないまま２週間過ごすわけですね。おのおの考えることはあるでしょうけど。ただ、これが例えば、委員長が来週開いてくださって、こういうことを進めて

いこうと思うとなって、この議論が足りんのんじゃないか、こういう話をしたほうがいいんじゃないかという意見が出たときに、じゃあそれを調べてきましょうと、考えてきましょうという宿題を出して、来週という形が取りやすくなるんじゃないかと、そういうことにならなければ２週間後でもいいですけど。次回開催、ちょっと早めにしておいて、ある程度時間を置いても大丈夫なものなのか、早めに取りかかったほうがいいのかというのは、進み方によって変わってくると思うので、そこの判断をするタイミングを早めに設けられたほうがいいかなとは思います。委員長自身がいつやるかという判断をするタイミングを早めに設けたほうがいいと思います。

○網谷委員長　先ほども申しましたように７月入ってすぐでもアンケートの賛否を問うて、それが賛成ということになりますとすぐにも手配して、２週間後にはもう結果をいただきまして、すぐ委員会を開いて、そこでまた協議をするということで、次の８月で２回ぐらいでそのアンケートを基に最終的には採決にするのか、委員会でこういう線で出とるからこういうふうに決めたいんじゃがというふうに決めるのか。最終的には９月12日が定例会の特別委員会だったと思うんですが、その日に一応方向性を決めたいというふうに考えておりまして、それをするためには、結論を出して、９月の定例会の特別委員会でこうこうこうで行きますということを決めて、それから議長のほうに答申を出すというふうな私は流れで行こうと思っとるんですよ。

どうぞ、小田上委員。

○小田上委員　大枠として全体の９月までの流れとしては、委員は把握していると思います。把握していると思うんですけど、ただ、議題が出たときに、今でも法律のことだったり、何だり調べてきとったほうがよかったねとかあるじゃないですか。ということで、これ今日もこの場があるのは、前回ハードルをちょっと出してきましょうというところで宿題が出てここに来てるわけですね。その宿題がどれだけ出るか分からないので、早めに１回やっておいて、宿題が余り出そうになくて、ある程度しゃんしゃんと進みそうなんだったら次回は長く取ってもいいかもしれない。でも、宿題出していっぱい解決しとかないとけないよねということがありそうな話になれば今回こうしてもらったみたいに早めにするという、その判断するタイミングをこの６月の中旬以降にしちゃうとまたきつきつになるのじゃないかなと思うので、次の議題に入るのは早めに入って、宿題があるのであれば早く設定してあげるという次の作業があったほうがいいかなと思いました。

○網谷委員長　ありがとうございます。今、私が先ほど申し上げましたのはざっくりですからね、分かっております。

昨年、月１ぐらいの気持ちでおった場合にね、切羽詰まりましたら、週１になるか、毎日になるか分かりませんよという言葉を出しておろうかと思います。

そういうことで、そこまでスケジュールぴしゃっと分かっておいたほうがええと言われるんなら、今私が考えとるとこは、来週は選挙期間中になりますから再来週、議員定数の在り方とそのほかをやりたいと思います。

それで、７月の最初に、アンケートの賛否を問うということで。賛否を問うた場合は、方法論、設問の仕方、それから無記名、記名、いろんなことをその日に全部決めたいと思

います。

○小中委員　大事な議論を無記名でするというのは、全くナンセンス。

○網谷委員長　ありがとうございます。一応計画ですから、その１日で全部決める予定でございます。それですぐ手配をして、次の中頃には、一、二週間で結論を出していただきまして、そのアンケートの結果を踏まえて皆さんの意見をいただいて、それで、やらない場合はそれなりの議員定数の問題一つに限って、９月の定例会の特別委員会にもありますように、結果を出したいというふうに考えております。

それ以降はまだ、こういう議論したからこれは間に合わんよいうことになりましたら、これでも、二、三日だけでも招集するかも分かりません。

今までの流れで何か聞きたいこと。

原田委員。

○原田委員　委員長のほうから週１でもいいですかって投げかけがあったんですけど、それに対してまだ議論というか意見が出なかったような気がするんですが。でも先ほどから聞いているとそれはもう大分前に、議論の内容によっては、週１回になることもあるよと確認してるんですから、議論の流れによっちゃそういうことになるということは前もって委員長のほうから御説明ありましたから、これは多分皆さん理解されていますので、日程的なことはそれでいいんじゃないかと思います。

○網谷委員長　ありがとうございます。週１という数字が出ましたらね、それは皆さんの意見を聞いて、決めた以上はもうやらなきゃいけませんからね、議論があろうとなかろうと。たとえ10分でも15分でも集まってもらうような格好にはしますから。そういう意味で皆さんの意見を聞いただけのことであってね。逆に私言ったのは、このままで行くと９月の定例会の特別委員会に間に合わんのと思うたら週１でも３日後でも５日後でもやるざるを得んかも分からんということは大分前に申したと思います。

以上です。

小中委員。

○小中委員　委員長の判断でいいんじゃないかと思いますけどね。１週間ごとにやって、今日のように堂々巡りの議論をずっと続けてもしょうがないわけで、ある程度これはやらなきゃっていう節というか、委員長が感じられたらそれはやればいいんであって。ちょっと誤解あると思うんですけど、無投票と定数には関係がないかも分からんけど、逆に今定数削減をやってるのは、無投票が動機なんだからね。それが分かってないともう話にならんということですわ。無投票と定数の関係があるかないか、それはもう個々人の勝手だけど。今定数削減の議論をせざるを得ないのは、それはもう前回が無投票になったからであるということ、それが分かってないともうこれ以上議論が前に進まないんじゃないかと思われますので。

○網谷委員長　ありがとうございます。

今回、無投票回避の打開策については、まとめを出してみたいと思うんですが、ちょっと御披露させていただきます。

今朝、副委員長とちょっと相談しながら書いたんですが、今までの議論の中でも打開策

とすれば難しいねというふうな意味合いで思いますが、つくった文章を読ませていただきます。

今回の無投票回避するための打開策はについての疑問、検証及び深掘りの意見交換の実施を行った結果については、今回はいろいろな方面からの意見が大変多く出されました。長時間の協議となりました。そうした中で、さきの全議員のアンケート結果での無投票回避の打開策はに対する問いには、議員定数削減と答えた方が３名、そして13名の方がそのほかの結果でございます。委員会としてのまとめといたしましては、おおむね国レベルでの一般論として論じられている以外の方策はおおむね見当たらないのではないかという結論に達したということを私と副委員長は感じたわけでございますので、前回と同じような意味合いになろうかと思いますが、どうでしょうか。

小田上委員。

○小田上委員　国レベルでの論じられること以外に取り組めることはないというのはないです。今日やってきたことが無駄になるじゃないですか。できることあるよねって話をしたのに。市民の方の意見を聞くみたいなやつはやろうと思えばできますよね。国レベルで論じていること以外にできることはないっていう、それは駄目だと思います。

○網谷委員長　国レベルの議論を、すること自体を、委員会の中で、発言の中でやめましょうということありましたよね。

社会保険、年金問題、そういう議論は国レベルですからやめましょうという発言があったでしょう。その議論の中にかなりの部分は含まれとるんですよ。この打開策については。分かります。全然関係ないと言われましたら私も言うことがないんですがね。ただそれをもう委員会の発言の中で釘を刺されましたから、それはもう論じる前にもう決まったことだというふうに私は解釈したわけですよ。

どうぞ。

○小田上委員　聞き間違いだったら大変申し訳ないので、国で議論してもらって、国が変えないとできないよね、そういう話はここではやめようと言ったのは分かります。文章がちゃんと聞き取れてなかったのか、勘違いしたのか、それ以外に方策がないと聞こえたんですね。それ以外に議会で取り組める打開策はないというふうに聞こえたので、それは違うんじゃないかなと思ったので、もう一度、そこの確認をさせてください。

○網谷委員長　ちょっと文章もう一回読みます。総括としましては、おおむね国レベルでの一般論として論じられている以外の方策は見当たらないと、見当たりました、皆さん、今日の意見の中、難しいという言葉が連発したんですがね。

どうぞ。

○小田上委員　分かるんですよ。でも国レベルのやつは確かに難しい、無理だよねというのは分かるんです。

○網谷委員長　国レベルは見やすいですよ、一番見やすい方策ですよ。

○小田上委員　いやいや国レベルの話をこんなところでしたって無理だよねという話をしたじゃないですか。

○網谷委員長　そうそう。

○小田上委員　でもこの大竹市議会の中でできることはこういうのがあるよねっていうのは出たけど、今すぐはできないよねっていうところになったじゃないですか。なので、取り組めることはあると思うんですよ。

○網谷委員長　だから今皆さん議論したわけですから。

○小田上委員　だから、委員長の今日のまとめの中に、国レベルのものはもうどうにもならんけども、市で取り組むべき課題はあったが即効性はないとか、取り組まないといけないけどすぐに実現は難しいみたいなものを今日のまとめとして入れていただかないと、ちょっと難しいかなと。

○網谷委員長　いやいやそれじゃまた一から出直しになるんですが。今日のまとめとしましては、いろいろ出ましたよね。

北地委員。

○北地委員　今、聞いたのは、国レベル以外のものは取り組めないという表現だったですね。

○網谷委員長　国以外の方策は見当たらないと。

○北地委員　国レベル以外のものは見当たらない。今日話したことはできないよという表現。

○網谷委員長　できないではないが、皆さんの意見として難しいねという。

○北地委員　即効性のあるものは難しいと。今後協議していく可能性はあるけども、即効性のあるものは難しいよねという結論だと思うんですよ。

表現がちょっと違うと思うんですよ。

○網谷委員長　議長。

○賀屋議長　今言われるように、今日の議論を総括をするということであれば、どういうハードルがあるかというのは二、三点出てきて、それを確認の意味で、すぐできるか、できんかは別にしていわゆる調べてみましょうねということがあったかと思うんですよ。それは、今日、今から調べて結論を得るわけにいかなので、ただ、そういう課題として共通認識をしましょうねということがあったんで、そこまでを消し去るわけにはいかないのではないかという、そういうことですよね。

それで、次のステップには、時間の問題もあって進まないといけないんですが、今日出てきたいろんな課題、話題についてはこの議会改革の中で将来的に課題として取り組んでいきましょうねということは皆さんの中で共通認識はできたのではないかなと思いますので、そこのところも含めて、課題ということについては何点か意見が出たということは総括の中では入れとくべきであろうということではないかと思うんですが。

○網谷委員長　ありがとうございました。

原田委員。

○原田委員　見当たらないという表現じゃなくて、そういう議論が実際されたわけですから、国レベル以外の課題について議論はされましたがというような文章でまとめていただかないと、見当たらなかったわけではなくて、見当たった中でいろんな議論があったわけですから、そこについては総括の中で見当たらないという表現は今日の議論が全部飛んでしまうので、変えてもらわないといけないのかなと思います。

○網谷委員長　何かいい文言があります。

どうぞ。

○小田上委員　今日の議事録、特に最後のほうですね、おのおの議長含めて言ってます。今日したことは大竹市議会で取り組めることで、取り組めるんだけど、すぐは難しいかもみたいな感じだったと思うんですよ。今からね、９月に向けてやるのは難しいという、取り組めるものもあったけどすぐは難しいよねというニュアンスを、副委員長も分かってくださって、委員長も分かってらっしゃると思うんで、そこ、後日でもいいと思いますよ。その旨でまとめていただけたら。なので、国のことはここでしゃべってもしょうがないよねとなって、市でできることをしゃべって、課題見つかって、取り組んだほうがいいとは思うけど、９月までにそれを実現させるのは難しいということになったというようなこの流れを報告の中に入れていただければすごく納得できるものかなとは思いますので、その趣旨でつくっていただければ、細かい文言まではいいのかなとは思います。取り入れていただけるということであれば。

○網谷委員長　分かりました。じゃあ総括のほうは後日また皆さんに審議していただきます。

それでは、今日のところはこの件に関してはよろしいですかね。まだありますか。

今のこの日程第１についてはどうですかね、よろしいですかね。

（発言する者あり）

○網谷委員長　日程第１はこれで終了させていただきます。

日程第２なければ、日程第２も、よろしいですよね。

次回の開催日を決めたいと思います。

次回は宿題と申しますか、皆さん先ほどから申しとるとおり議員定数の在り方についてと、そのほかの項目で検証、深掘りの協議を行います。そのほかも入れますから。それから、今日の委員会のまとめも一緒に審議していただきます。次回当日の審議のまとめと今日のまとめが二つ入りますので、よく審議していただければと思います。

ということで今のところよろしいですかね。宿題も兼ねて。

それでは、次回開催日を決めさせていただきます。次回は、20日の週、来週は選挙の週間になりますので、20日の週、議長の予定がありますかね、局長。

局長。

○三上議会事務局長　特に予定はありません。

○網谷委員長　ない。ということは22、23。

（発言する者あり）

○網谷委員長　23はどうですか。木曜日。

（発言する者あり）

○網谷委員長　それでは、６月23日の木曜日10時からですが、皆さん昼からも用事をつくらんとってくださいね。どういう時間の流れになるか分かりませんので。

以上で議会改革特別委員会を閉会といたします。お疲れさまでした。

15時28分　閉会